

認知症になっても輝けるまちへ ～いのち輝く折り鶴100万羽プロジェクト～

森 安美 ●ゆめ伴(とも)プロジェクト in 門真実行委員会 総合プロデューサー



海外の方との折り鶴交流で笑顔になる高齢者

要旨

本活動は、認知症の人や高齢者などが折り鶴づくりの担い手となり、地域の人たちと力を合わせ大阪・関西万博会場や各地に100万羽の折り鶴を飾って、世界からの来場者をお迎えする取り組みである。

本活動の目的は、折り鶴づくりを通じて認知症の人などの「社会とのつながり」を創出することだ。この実践の中で多くの高齢者の笑顔が生まれ、一人ひとりのいのちが輝いた。

これらの「いのち輝く折り鶴」は、万博会場や商業施設、公共交通機関などにも飾られ、多くの人々の心を照らしている。私たちはこれを機に、認知症の人などが主役として活躍できる場や機会を増やし、認知症になっても輝けるまちを全国、そして世界へと広げていくことを目指している。

地域医療貢献のポイント

認知症の人が地域の人たちと「共に楽しむこと」を意識した活動を展開することで、支援する人と支援される人の関係性を超え、立場を超えたチームとしてのつながりが創出できた。

1. 目的と方法

認知症になると地域社会とのつながりが希薄になりやすいことから、本団体では認知症の人が活躍できる畑やサロンなど多様な場や活動を創出し、その活動を通じて地域の人とのつながりを生み出すことを目的とした活動を実践している。

その中の一つである折り鶴プロジェクトは、コロナ禍で「人と人が会えないなら折り鶴でつながろう」と、折り鶴をコミュニケーションの手段としてスタートしたものだ。折り紙1枚があれば、移動が困難な要介護高齢者も活動に参加でき、地域を超えて誰もが活動に参加できる取り組みであることを実感した。

2022年からは、2025年大阪・関西万博の万博会場や全国各地に折り鶴を飾って世界からの来場者をお迎えしようという「いのち輝く折り鶴100万羽プロジェクト」をスタートさせた。

2. 現状の成果・考察

門真市では商業施設の協力を得て「いのち輝く折り鶴JAPANパビリオン」を創設し、



デイサービスで折り鶴づくりに取り組む高齢者



万博会場内 団体休憩所の壁面に飾られた折り鶴



「いのち輝く折り鶴JAPANパビリオン」



大阪モノレール「折り鶴列車」

20万羽の折り鶴を展示。認知症の人や高齢者が折り鶴で交流できる居場所づくりを展開している。

また、多様な企業や団体との共創も生まれている。具体的には大阪モノレールの列車内に折り鶴を飾った折り鶴列車が万博閉幕まで運行されている。また、主要5駅には折り鶴ポストや折り鶴ツリーなどを設置し、誰でも本プロジェクトに参加できるようになっている。さらには、沖縄都市モノレールの「那覇空港駅」など3駅にも折り鶴ツリーと折り鶴ポストを設置。沖縄県や大阪モノレールの沿線住民や、高齢者施設などが本プロジェクトに多く参加されるようになり、活動を一気に広げることができた。

さらに海外とは、これまでも英国やナイジェリアとの交流が続けているが、2024年度は、米国ピッツバーグより認知症や健康などを専門にされている大学教授や医師など6名が視察に来られ、高齢者と折り鶴交流会を行った。高齢者がいきいきと活躍している様子に視察団のメンバーはとても感動的だったと感想を述べておられる。

これまでの実績もあり、大阪・関西万博では公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と共催で、会場内の団体休憩所の壁面に約5万羽の折り鶴を展示することができ、10月の閉幕まで約半年間飾られている。認知症の人や高齢者などにとっては、自分が万

博に行けなくても、代わりに自分の折り鶴が万博で活躍していると実感できることで、大きな達成感と誇らしい気持ちを生み出すことができています。



特養で折り鶴づくりに取り組む高齢者

3. 今後の展望

現在、大阪府、関西圏だけではなく宮城県や福島県、沖縄県や長崎県、香川県などにも活動が広がっており、今後、折り鶴パビリオンを拠点に折り鶴とともに認知症の方々が活躍できる場や機会を、全国にさらに広げていきたいと考えている。



海外の方との折り鶴交流で笑顔になる高齢者